

AAALA NEWS

Asian American Literature Association, Japan

July 2022 No. 60

- ◎ 2022年2月24日に始まったロシアによるウクライナに対する軍事侵攻がまだ終わりがみえない状況にある中、夏休みを前にして新型コロナウイルスの感染も再び増加に転じてしまいましたが、会員の皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。AAALA News 第60号をお届けいたします。今号は2021年度の最後に開催されました第143回例会の発表要旨と特別企画『『アジア系トランスボーダー文学』合評会』の報告を掲載しております。お忙しい中、研究発表いただいた先生方および合評会で論評して下さった先生方に感謝いたします。また、会員の皆様で例会発表をご希望の方は随時受け付けておりますので、担当地区役員あるいは事務局までご連絡ください。
- ◎ 第30回 AAALA フォーラムのプログラム及び申込方法を同封しております。今年度のフォーラムのテーマは「アジア系アメリカ文学研究とトランスボーダー性／オリエンタリズム——村上春樹と小野姉妹を中心に」です。
- ◎ 今回は、9月25日(日)に早稲田大学早稲田キャンパスにおいて、久しぶりに対面でフォーラムを開催する予定です。(ただし、コロナ感染状況などにより、オンライン開催に変更することもあります。)
- ◎ 午前は、早稲田大学の辛島デイヴィッド先生の講演「副業としての翻訳家：村上春樹から始まった20年を振り返って」と辛島先生を囲んでのミニ・シンポジウム「トランスボーダー文学としての村上春樹」を予定しております。午後は、総会の後、牧野理英先生(日本大学)、田ノ口誠悟先生(日本学術振興会特別研究員PD)、矢口裕子先生(新潟国際情報大学)、松川祐子先生(成城大学)にご登壇いただき、シンポジウム「アジア系アメリカ文学とオリエンタリズム——小野姉妹の功績を中心に」を行います。
- ◎ 皆様のご参加を心よりお待ちしております。宿泊を予定されている方は、各自お早目に宿泊施設にご予約されることをお勧めします。

(文責：池野)

例会報告要旨 (2022年3月例会)

◇第143回例会 (2022年3月19日、Zoomを利用したウェブ開催)

・古川 拓磨 (神戸大学 (院)) 「キリスト教的観点に基づくヒサエ・ヤマモトの
「フィレンツェの庭」の分析——戦争体験と異人種間交流の考察」

Hisaye Yamamoto (1921-2011)の「フィレンツェの庭 (“Florentine Gardens”）」(1995)は、作者自身の第二次世界大戦とその後の体験に基づいた短編小説である。主人公の日系アメリカ人女性 Kimiko Jauregui は90年代のある時期、ラテン系の夫 Al と共に、娘 Lisa とその上司であるスラブ系の Bob Kovalak のイタリア出張に同伴している。この4人のアメリカ人旅行者の集まりは、(世代間の温度差はありながらも)互いに直接的・間接的な戦争記憶によって結び付けられて描かれており、作者の人種的マイノリティ他者への共感と連帯を示唆している。

作品前半では風光明媚なヨーロッパの各所を巡る描写が続く一方、Kimiko は第二次大戦時にヨーロッパで戦死した弟 Tommy の慰霊を旅の主たる目的に据えているらしい。観光と墓参という対照的なダブル・プロットの中で、Kimiko の回想する Tommy との思い出や感情の中には、未だに辛い記憶の残留が読める。Tommy の亡骸を故郷カリフォルニアではなくフィレンツェに埋葬することを強く望んだのは Kimiko 自身であったが、彼女が半世紀近くも経ってから弟の死と対峙し、その抑制された記憶の昇華という目的に至った過程に関しては検討の余地があると思われる。

それらの考察の糸口として本発表では、作者が強く関心を寄せていたカトリックとの関連性を考えたい。具体的には Tommy が戦場で被弾して死亡する場面と、Kimiko が彼の埋葬地に撒かれた小石を集め、夫と共にカリフォルニアの両親の墓に埋めようとする場面における宗教的含意である。それは、Tommy の社会的な男性性に時に羨望を感じていた Kimiko が、戦死してしまった彼を偶像化しその墓の小石をあたかも聖遺物のように取り扱う「儀式」として捉えられまいか。以上の場面を分析し、Kimiko が戦争トラウマとどのように向き合うに至ったか、その過程や契機について作者の思想との関連から探ってみたい。

「ミス・ササガワラの伝説 (“The Legend of Miss Sasagawara”）」(1950)を除きあまり戦争に言及しない Yamamoto だが、彼女の作品には反戦の意識が貫かれている。本発表では、これまであまり取り上げられてこなかった「フィレンツェの庭」を、作者の戦争体験やキリスト教的宗教観に強化された平和主義思想と照らし合わせながら読み解き、戦争トラウマと人種的・世代的な「他者」への共感の結び付きについて検討する。

・渡邊 真理香 (北九州市立大学) 「クィア・セオリー以前期におけるアジア系レズビアン文学 (Asian American Lesbian Literature before Queer Theory)」

アジア系のセクシュアル・マイノリティによる、あるいはそれをテーマに描いた文学作品は、1969年のストーンウォールの反乱をきっかけにゲイ/レズビアン解放運動が本格化した1970年代から姿を現し始めた。本研究発表では、これまで作家としてはあまり関心を寄せられてこ

なかったレズビアンlesbianの社会活動家 Michiyo Fukaya (1953-1987) の文学活動に注目した。Fukaya を選んだ理由は、彼女が人と人との間の差異を訴え続けた人物だからである。

「差異」というのは、1991 年に提唱されたクィア・セオリーの根幹にあるキーワードであり、議論の対象であり続けてきた。クィア・セオリーの提唱者 Teresa de Lauretis は、セクシュアル・マイノリティsexual minorityの共闘において、ジェンダーや人種の差についての批判的対話の重要性を主張した。互いの差異を捉えきれないうちは、ヘテロノーマティブheteronormativeな社会に対峙するための強固なコミュニティcommunityは作ることができないからである。このように、クィア・セオリーは、それまでの社会運動への批判を基盤とした展開であり、より包括的な連帯を促す実践的概念であった。

クィア・セオリーが提唱される以前から、男性中心かつ白人中心の運動に対し不満の声をあげていたひとりが Fukaya であった。1970 年代～80 年代にかけてヴァーモント州バーリントンを中心に活動したフェミニストであった Fukaya は、日系の民族ルーツを持つレズビアンである。貧しいシングルマザーである苦しみに加え、近親相姦や性暴力被害のトラウマによる精神疾患も抱えていた。彼女はアメリカ社会が差異を等閑視したために生まれた悲劇の人物である。Fukaya の行ってきた政治的活動や彼女の作品は、人種やジェンダーといった表層的差異にとどまらず、深層的差異、つまり、経済状況や精神状態における差異もまた見過ごされがちだったことに気づかせてくれる。

Fukaya の詩やエッセイで綴られた痛々しいまでにむき出しのメッセージは、人と人との間の差異について問い続けるものであり、差異は議論され続けなければならないと言うクィア・セオリーが軸とするメッセージを再確認させるものであるといえる。さらにそれらは、21 世紀に入ってから活発に議論されるようになったインターセクショナリティintersectionalityについて考えるうえでも重要な視点ではないだろうか。

・特別企画：『アジア系トランスボーダー文学』合評会」報告

報告者：山本 秀行 (神戸大学)

2021 年 10 月に AALA 会員が中心となって編集・執筆した論集『アジア系トランスボーダー文学——アジア系アメリカ文学研究の新天地』(小鳥遊書房)の合評会を「特別企画」として開催した。合評会では、評者として中垣恒太郎氏(専修大学)、塚田幸光氏(関西学院大学)、杉山直子氏(日本女子大学)を迎え、各評者が独自の論点からコメント・質問が提示された。その中の関連するものに対して本書编者および著者が応答や追加説明などをするとともに、フロアの参加者も交え、大いに議論を深めることができた。

事務局だより

<新入会員の紹介> 2022年4月現在

(敬称略) 加藤麻衣子(青山学院大学 非)

小谷 真由 (神戸大学 院)

<会費納入のお願い> いつも会員の皆様には、会費を納入いただきましてありがとうございます。
ALA Journal No.25 を送付の際に、振込用紙を同封させていただいております。もし、未納の方が
いらっしゃいましたら、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

<住所等変更について> 住所、所属、メールアドレス等に変更がありましたら、ご面倒ですが、事務局
名簿担当の深井までメールでお知らせいただきますようお願い申し上げます。

michifukai@hotmail.com

<*ALA Journal*バックナンバー購入のお願い> *ALA Journal*バックナンバー(在庫僅少の No.1
を除く)を1部1,000円でお送りしています。会費納入の際に、ご希望の号と冊数を振込用紙の「通信欄」
にお書きいただくと簡単です。

<ジャーナルの執筆者負担> ジャーナルの投稿論文掲載には、従来から、執筆者負担をお願いして
います。負担金額に応じてバックナンバーをお送りしています。最低額10,000円(1,000円×10部分)以
上をお願いしておりますので、お忘れなくお送りくださいますよう重ねてお願ひ申し上げます。

☆会費・執筆者負担等の振込先は以下の通りです(振込料金は振込者負担となります)。

[郵便振替口座番号 01180-1-75183 加入者名 アジア系アメリカ文学会]

アジア系アメリカ文学会

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学人文学研究科山本秀行研究室内

TEL&FAX: 078-803-5543

ALA NEWS No.60 2022年7月20日

編集担当：池野みさお